

第4次中期経営計画 経営基本方針

本学園は、今日まで建学の精神「自律処行（自らの良心に従い、事に処し善を行う）」を基盤として、知性と徳性を備え、他者と協働する力を有する情操豊かな人材の育成を目指して教育活動を展開してきた。

現今の私学を取り巻く厳しい環境下において、本学園の設置校が学園の使命である建学の精神に基づいた教育活動を真摯に取り組み、学生・生徒・園児・保護者の満足度の向上を図る。さらに設置校相互の連携を深め、組織力を強化することにより、志願者を増加させ収容定員を充足するとともに、安定化した財政基盤を強固にし、地域に根差した教育機関として永続的に学園運営を行う。

そのために、学園全体を「経営体（大学経営・高校経営・幼稚園経営・管理経営）」として一体的に捉え、各部門の事業方針、基本目標を明示し、成果指標を設定して活動結果の点検を可視化できるようにする。

1. 戦略展開を支える組織力の強化

本学園は、第4次中期経営計画の実施にあたり、第3次中期経営計画における成果指標を掲げた取り組みを基本的に継承し、計画の進捗状況、成果目標に対する達成度を定量的に把握できる組織体制の構築を目指す。

第4次中期経営計画では、事業方針に基づく成果目標を設定することにより、学園の職員全員が計画の到達点を共有し、実績値との差異により現状との乖離を正確に認識する。また、定期的の実績を点検することで目標に対する進捗度を把握し、変化が著しい社会情勢に対応した成果指標の見直しなど、速やかな軌道修正を行う。目標達成を実現するために、戦略展開が客観的に点検・評価でき、成果目標に対する達成を支援できる組織力の強化を図る。

2. 学生・生徒・園児・保護者の満足度を向上させる教育の実践

学生・生徒・園児・保護者が学園に対して求める価値を十分に把握し、同時に学園が達成すべき成果を見極め、学生・生徒・園児・保護者の満足度が向上する戦略を強力に遂行する。とりわけ、学生・生徒・園児の卒業、卒園における満足度の向上を重要項目とし、学生・生徒においては、キャリア教育およびキャリア支援の充実により、学修成果が実社会で実感できるようにする。

大学部門では、教育組織の改革に取り組み教育システムを向上させ、教職協働の学生支援体制を構築し、学生が学修や学生生活に専心して自らの成長を実感できる体制を構築する等、教育の質の向上を図る。また、社会情勢に対応した人材養成を行うために学部・学科等の教育組織改編を継続的に実施する。

高校部門では、生徒の多様性に対応し、可能性および能力を伸長するための教育活動を展開することで、特色化・魅力化を推進する。

幼稚園部門においては、教職員の資質を向上させ、幼児教育の内容・方法を改善し、実践の質の向上を推進する。

3. 収容定員の安定的な充足

現在の収容定員は収支均衡と安定した教育を行ううえで必要最小限の定員であり、収容定員の充足は最重要目標である。教育機関を取り巻く環境は、少子問題の深刻化により、厳しさを増すばかりである。一方で、変化する社会情勢に対応した人材養成の担い手としての教育機関に対する期待は引き続き高いものがある。

上記のような環境下において、戦略展開を支える組織力を強化して、学生・生徒・園児・保護者の満足度を向上させることにより、学園のブランドの価値を高め、収容定員を安定的に充足するよう全力で取り組む。